

(別紙)

平成25年度 産業廃棄物税基金充当事業 実績報告書

事業名： 木質バイオマス燃焼灰等破棄物の再生利用技術の開発

事業実施予定期間： 平成24年度から平成26年度

担当課室名： 林業技術総合センター

担当班名 地域支援部 TEL: 022-345-2816

e-mail: stsc@pref.miyagi.jp

URL: http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/stsc/

1 事業の目的

東日本大震災により生じた木質系震災廃棄物は、チップ化することにより、燃料や木質系ボード等への利用が進められている一方で、海岸林の被災材の利用は一部にとどまっている状況にある。また、原木の生産・流通・加工時に生じる樹皮や残材・残滓などの利用法の開発が、震災以前から求められているところである。

このような背景の下、木質系震災廃棄物をはじめとする未利用木質資源の活用拡大を図るため、木質バイオマスの再生利用技術を開発し、利用モデルを構築する。

2 当該年度の実施事業の概要

復興公共工事や海岸林再生のために木質バイオマスを植生基盤材へ利用するため、被災マツチップを含む植生基盤（汚泥コンポスト）を用いて、東松島市の海岸防災林内での実証試験等を行い、性能確認や施行性の調査に関する研究に取り組んだ。

3 当該年度の実施事業の成果

① 利用モデルの検討

・木質バイオマスを植生基盤材へ利用するため、利用分野や用途開発の方向性として、切土斜面用の法面緑化材や砂の移動を抑止するためのマルチング材の利用について検討した。

② 用途技術の開発（コンポスト事業者と連携）

・海岸砂地造林に応用できるよう、マツ破碎チップを混合した下水汚泥堆肥と従来型のバーク堆肥を用いて土壌改良材を試作した。

③ 現場実証試験

・性能確認と施行性の調査を行うため、東松島市の海岸防災林内に、マツの破碎チップと下水汚泥堆肥を利用してクロマツ及び広葉樹を植栽し、併せてマルチングを施し、その生育状況を調査した。

当該年度までの現場実証試験の結果では、木質チップと混合した下水汚泥堆肥は、他の土壌改良材と比較してクロマツ苗の成長率に大きな違いはなく、使用が可能であることが示唆された。

4 今後の展開

引き続き、植栽木の生育状況を調査するとともに、木質チップや下水汚泥堆肥等を混合・調製することにより海岸林再生のための植生基盤材等に加工する技術の開発及び実用化を目指す。

5 廃棄物の削減・リサイクル、適正処理の促進の効果等を示す指標の数値

(指標：スギ樹皮利用率の向上)

単位：%

平成23年度 (測定年 H19~21)	平成24年度	平成25年度	平成 年度
55	55	55	

6 事業費の推移

単位：千円

平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成 年度
	1,472	2,013	